
序論

- 「分かったつもり」で進めると失敗する
(説明書を読まない家具組み立て・料理のたとえ)
- 信仰も同じ
 - 中身を取り違えると「空しい信仰」になる
- コリント教会の問題
 - 復活を疑う者がいて、信仰の土台が揺れていた
- 今日のテーマ
 - 私たちが本当に握りしめるべき福音とは何か

I. 福音によって立ち、救われる(1-2 節)

- パウロの呼びかけ:「兄弟たち」
- コリント教会も、私たちも
 - 同じ一つの福音の上に立っている
- 救いの鍵は「福音を保持すること」
 - 「保持する」= しっかり握って離さない(カテコー)
- 信仰は「ぼんやり信じる」ことではない
- 救いは
 - 私たちの熱心さや努力ではなく
 - **信じている内容(福音)**による
- 福音の中身を失った信仰は空しい

II. 最も大切なこと — 福音の中身(3-8 節)

1. キリストは死なれた(3-4a 節)

- 私たちの罪のための死
- 「聖書に書いてあるとおり」
 - 神様のご計画に基づく十字架
- 仮の死ではなく、完全な死
 - 葬られた事実がその証拠
- キリストと共に
 - 罪人としての私たちは死んだ

2. キリストはよみがえられた(4b 節)

- 復活は「心の復活」ではない
 - 死に対する勝利

- 「聖書に書いてあるとおり」
 - 神様のご計画としての復活
 - 多くの証人による歴史的事実
 - ペテロ、十二弟子、五百人以上
 - ヤコブ、使徒たち、パウロ
 - 福音は
 - 教えではなく「事実」
-

Ⅲ. 恵みの実例 — パウロの人生(9-10 節)

- 教会を迫害していたパウロ
 - 「使徒と呼ばれるに値しない者」
 - しかし
 - 「神様の恵みによって、今の私になった」
 - 人生を 180 度変える福音の力
 - 働いたのは自分ではなく
 - 共にあった神様の恵み
-

結論

- 「最も大切なこと」を取り違えてはいけない
- 信仰の土台は
 - 熱心さ・行い・感情ではない
- 土台はただ一つ
 - キリストの十字架と復活という福音の事実
- 私たちは
 - この福音によって立たされ
 - この福音によって救われ
 - この福音によって今も生かされている
- 福音を
 - 「知っているもの」ではなく
 - 「今日も握りしめて生きるもの」として歩もう